

展覧会の御案内

Camel K

松田一の 絵画小品展

2007年 7月19日[木]~24日[火]

am11:00~pm7:00

会期中休みなし

ギャラリーキャメルK
〒790-0877愛媛県松山市錦町33-3
☎ (089) 913-2002
<http://camelk.daa.jp/>



世界遺産「五箇山」

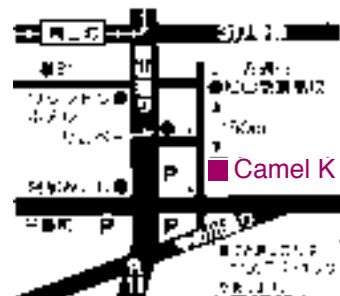
アートの神は細部に宿る 〈松田 ^{はじめ} 一 小品展〉

1年に1度、38回目。松田一の個展で初めての小品展の開催です。毎年、大作・力作を並べて自らの造形世界の歩みを正面から世に問うてきた松田一が、一転今年は、身近なモチーフや旅のスケッチのみでその世界を表現します。さてどんな世界が姿を見せるやら、興味津々です。神は細部に宿ると言います。アートの神様も例外ではないと思います。画面は小さいけれど、色彩と形象の魅惑の度合いはいかに。見逃せない展観です。乞うご期待。

作者の言葉

近年旅でスケッチしたものや
ふたんの暮らしの中で描いた
身近雑言記のような私の体温
のある小品具象画を並べて
みました。お披露目においで下さい。

松田一



「東京へ行くな、故郷を描け、パリへ行くな、自分の世界を深めろ」

松田一は、櫟林の向こうに石鎚山系が見える東温市の風光を愛してそこにアトリエを構え、腰を据えた。

美術団体に属さず、独りで自分の世界を深めるように表現を積み重ねて38年経った。「東京へ行くな、故郷を描け、パリへ行くな、自分の世界を深めろ」それは、他人の評価を気にして自分の世界を失うことや流行に振り回される新しがりの不毛に対する自戒の言葉だ。

でんしんゆうらく
田紳有楽



「どくだみ」

松田一は、庭に自生するどくだみの花や散歩の途中の何気ない見慣れた日常の光景を、初めて見る旅人のような新鮮な眼で私たちにを見せてくれる。大気の中に凜として立つように描かれた「どくだみの花」は名もなき人々への人間賛歌のようでもあり、自画像のようでもある。平凡な日常にも楽しみが有り、隣り合わせに非日常の裂け目も有る。

「海辺の教会」は天草を訪ねたときのスケッチが基になっている。

空に屹立する教会の尖塔の背景に錯綜する色調や漁民の家の燃え上がるような赤い屋根は、かつて首都から遠く離れた鄙の島で繰り広げられた民衆の信仰を巡る人間ドラマのいきさつがすくいとられている。闘いと踏み絵の中に敗れ去った民草への愛惜のまなざしを感じることができる。



「海辺の教会（天草）」



「記憶の断片」

油彩・ガッシュ・水彩・色鉛筆・コンテなど画材は様々ですが作者の言葉にあるようにモチーフは画家の日常の中から生まれた親しみやすい作品群です。花・風景そして自分のこのころのなかを旅して、無意識に貯蔵されてきた記憶の心象を取り出して形象にした抽象画など出品作は約30点です。

今回の小品展には、旅人になり、歴史家になり、思索家になって日常や日本の風光の探訪者となる画家・松田一の原型をみることができます。どうぞご来場の上、ご自分の眼でご覧になって下さい。

